



スクールカウンセラーだより

令和4年 夏号

夏休みが近づいてきました。夏休みは、家族が好きで学校も好きな子供はとても楽しみにします。だけど、家族がしんどくて、学校が好きな子は夏休みが来るのを嫌がります。逆に学校がしんどくて、家族の居心地が良い子は、夏休みが終わるのを嫌がります。「何でもいいから、夏休みについて話してみてよ」という質問をすると、子どもの心が見えてきます。これらのパターンは小学生から高校生まで同じです。この頃はネガティブな答えを出す子どもや若者が増えてきているのが気がかりです。

さて、今回のテーマ「空気を読む」です。

「空気を読む」というのは、相手が何を考えているのか、要望しているのかを想像して、その場に応じた行動や言動ができるということです。「同調圧力」もこれに含まれます。

同調圧力というのは、少数意見を持つ人が多数意見に合わせるよう暗黙のうちに強制するものです。会議などで、みんなが賛成しているのに、一人だけ反対すると「なんだよあいつ、空気が読めねえ奴だな」などと捉えられます。

コロナウイルスの対策に、みんなマスクをしているけれど、自分はマスクをする必要はないと考え、マスクなしで電車に乗って咳をしたりすると、周囲から凄い圧力がかかります。日本人はこの「空気を読む力」を非常に重視します。

諸説ありますが、稲作を文化の中心に据えてきたので、田植え、水の管理、収穫などを村中で協力する必要がある、それを守れない者には「村八分」という恐ろしい制裁を加えました。

小学校から高校まで、同年代が「教室」という閉鎖的な空間に押し込められると、必ず「空気が読めない」という問題に悩む子どもが出てきます。そしてそれは仲間外れやいじめの原因になります。この仲間外れやいじめの構造は、昔の村八分の構造と似ています。

空気が読めなくてひどい目に遭った子は、人と話すのが怖くなり、自らをコミショウ（コミュニケーション障害）と名乗ったりします。そしてそれは、不登校や引きこもりの大きな原因となります。

また、逆に空気を読み過ぎる子どももいます。そんな子はいつも自分の言動を気にし過ぎるあまり、不安神経症や対人恐怖症、強迫神経症になりやすくなります。この傾向は大人にもみられ、日本人は外国に比べ「不安」で心を病む人が非常に多いです。

空気が読めず学校で孤立してしまうと、「周囲になじめないかわいそうな奴」と思われてしまう可能性があるのも、その葛藤から逃れるために学校を避け始め、やがて不登校や引きこもりにつながります。

～～解決方法～～

人と話すのが苦手な子どもに、いきなり初対面のカウンセラーと話せと言っても無理があります。そういう場合は、まず先生や保護者と一緒に相談に来て下さい。本人が無理な場合、保護者の方だけのご相談も有効です。

ご予約について

完全予約制です。開設日時は学校にお問い合わせください。初回のご予約は学校の先生を通じてお申し込み下さい。2回目からは相談室で直接予約して頂けます。

皆様のご来室を、心よりお待ちしております。

スクールカウンセラー 古川秀明